

冬は白鳥と共に

阿部 正則

393-0005 長野県下諏訪町東町中1 595-1

諏訪湖白鳥の会・事務局

諏訪湖に昭和49年11月11日に2羽の白鳥が飛来したのが最初で、この2羽にスワオ、スワコと名付けられました。以来今冬で40年目の節目となりました。

白鳥の仲間は地球上に8種類がいて、北半球に5種類、南半球に3種類が棲息しています。このうち北半球にはコブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、アメリカコハクチョウ、ナキハクチョウ。南半球にはコクチョウ、クロエリハクチョウ、カモハクチョウが生息しています。

諏訪湖へ越冬に飛来するのは主にコハクチョウで、ロシアの北緯65度以北の地帯で繁殖し日本には冬鳥として飛来、「冬の使者」とか「シベリアからの使者」などと言われる由縁です。

はるばる飛来する白鳥や水鳥たちを守ろうと昭和59年に諏訪湖白鳥の会(発足時は諏訪白鳥の会)が発足し、飛来地周辺の環境整備のほか諏訪湖に入って、白鳥愛好者から提供していただいた穀類、野菜等を自然の餌の補食として給餌するなどの活動をしてきました。

特に大変な事は、全面結氷した厳冬の湖に、胴長靴をはいて入り、氷を割り餌場を確保する事です。一定の広さの餌場を確保するには約1時間強はかかります。

しかし氷を割るつらい作業の反面で楽しみも生まれます。それは氷上にいたコハクチョウ達が氷が割られ餌場となる水面が出来るのを待っているからです。

沖合の釜穴で一夜を過ごした彼らが、氷を割り始めてしばらくすると割れた様子を1、2羽で見に来るのです。これを私たちは「偵察に来た」と言っています。

偵察隊が群れに戻り作業も終了したところ、少数のグループになって餌場に戻ってきます。この絶好なタイミングをカメラマン達は早朝からねらっているのです。

ふだんは餌場近くにいる彼らに三脚などを振り回すと、警戒してサッと沖の方へ移動しますが、氷を割る時の道具「とび口」「ツルハシ」「長い鉄パイプ」などを振り

回しても白鳥やカモたちは逃げもせず、氷を割る様子を遠巻きにして餌場を待ちのぞんでいる様子は何ともいえません。

彼らは危険でないことを心得ているのです。そこには人と鳥との心の通い合いが生まれています。氷が割られた水域へ次々に入ってくる彼らと、上空を飛び交う白鳥達。諏訪湖の中において彼らの目線で共に日の出を見られる時など、まさに至福のひとときです。頭上を飛ぶ彼らのギュギュとも聞こえる翼がきしむような音がします。この羽音を陸地でなく湖の中で聞くのがたまらなく心地よく、寒さも忘れさせてくれます。

採餌の後、彼らは氷の縁に上がり八ヶ岳をバックに思い思いに羽繕いを始めます。この光景は諏訪湖ならではのものです。

ここ横河川河口付近の環境も大きく変わりましたが白鳥やカモ達の格好な越冬地であり、マコモなどの自然の餌が取れる場所となり、給餌をしなくても良い環境が形成され、動植物の楽園として多くの皆さんに愛されることを願っています。



氷を割る様子を遠巻きにして餌場を待ちのぞんでいる。白鳥愛好者提供 H2.1

諏訪湖白鳥の会・会報 第22号 H20.21年 35シーズンから

諏訪湖白鳥の会活動等記録

昭和49年 (1974)	<ul style="list-style-type: none"> ・11月11日2羽のコハクチョウの飛来が確認され、狩猟の銃声に驚かされながらも無事越冬し翌年4月1日に北帰行。 ・小学校教諭をされていた林俊夫先生により、嘴の模様から個体識別をする戸籍作りの研究が始められ、記念すべき2羽に、「すわお」「すわこ」と命名された。
昭和57年 (1982)	<ul style="list-style-type: none"> ・初飛来後数羽から10羽前後で推移し、人工給餌が始められた。
昭和59年 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月林先生や諏訪湖ハイツに勤務の両角保雄氏らを中心に「諏訪白鳥の会」が発足し、初代会長に諏訪湖ハイツ支配人の久保田茂明氏が、事務局長に両角保雄氏が就任。
昭和61年 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> ・2代目会長に諏訪湖ハイツ支配人増澤将浩氏が就任。会名が現在の「諏訪湖白鳥の会」に変更された。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第1号」（12シーズン）を発行。
昭和62年 (1987)	<ul style="list-style-type: none"> ・3月1日日本白鳥の会「諏訪研修会」（白鳥サミット）が諏訪湖ハイツにおいて開催される。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第2号」（13シーズン）を発行。
平成元年 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月10日～12日先進地視察研修を行う（参加者19名）。視察地：阿武隈川・猪苗代湖。給餌方法、保護活動等について現地の白鳥の会担当者から話を聞き研修を行った。
平成2年 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月12日岡谷市制施行54周年記念式典において行賞（有功表彰）を受けた林俊夫氏、両角保雄氏の受賞祝賀会を行う。（記念品として額を贈呈） ・11月17日7羽飛来したコハクチョウの中に「No.0586」の足環をつけているのが確認され、山階鳥類研究所へ問い合わせた結果、同年4月10日にクッチャロ湖で電波発信機をつけ、人工衛星で追跡調査した「のりこ」と判明。また林先生の研究から5年前から諏訪湖に飛来していた「ぼけまる」であることもわかった。（ぼけまるとは嘴の模様がぼけていることからその名がついていた。） ・12月3日衰弱しているコハクチョウの幼鳥を保護してアルプス公園において手当をしたが死亡。その死亡原因を解明するために、日本獣医畜産大学に依頼、解剖の結果、鉛中毒による死亡の可能性が非常に高いとの報告が届けられた。

平成3年 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月10日首の骨が変形したコハクチョウ「元気君」が飛来し注目を集めた。 ・1月12日第1回とん汁会を開催し、300～400食分のとん汁が1時間たらずで終わってしまい盛会であった。具材は会員の持ち寄りで行った。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第3号」（16シーズン）を発行。 ・諏訪建設事務所と諏訪湖白鳥の会とで協議して進めてきた横河川河口周辺の整備事業の中、太川～横河川間の人工なぎさが完成。 ・それに伴って餌となるマコモ等を移植する。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第4号」（17シーズン）を発行。
平成4年 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月12日第2回豚汁会開催。具材は会員の持ち寄りで行った。 ・4月4日横河川右岸左岸2箇所的人工なぎさが完成。 ・11月15日狩猟解禁日に、日本野鳥の会諏訪支部主催の全面禁猟キャンペーン探鳥会に参画。 ・12月1日全面禁猟を求める陳情書を諏訪地方事務所を經由し、長野県へ提出。（日本野鳥の会諏訪支部・長野支部・軽井沢支部・木曾支部、信州野鳥の会、松本ナチュラルリストクラブ、岡谷青年会議所、諏訪環境まちづくり懇談会、諏訪湖白鳥の会） ・諏訪湖白鳥の会「会報第5号」（18シーズン）を発行。
平成5年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月10日第3回豚汁会開催。具材は会員の持ち寄りで行った。 ・5月岡谷湖畔公園整備計画が発表され、餌の保管小屋、備品小屋の設置を要望する。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第6号」（19シーズン）を発行。
平成6年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月9日第4回豚汁会開催。（具材約5万円）この回以降、具材は会からの支出で賄うこととした。 ・6月新会長に諏訪湖ハイツ支配人山崎善郎氏が就任。 ・7月1日～7月15日桑本和一氏コハクチョウの繁殖地シベリアへ観察旅行。 ・12月4日～7年1月7日の間で相次いで4羽のコハクチョウが鉛中毒となる異常事態、その内幼鳥1羽、成鳥2羽は豊科町（現安曇野市）の「どうぶつの病院」望月明義先生による、高度な医療技術と献身的な看護により一命をとりとめ無事放鳥。（まあちゃんNo.0590、たかちゃんNo.0739、美砂ちゃんNo.0740） ・諏訪湖白鳥の会「会報第7号」（20シーズン）を発行。

<p>平成7年 (1995)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月14日翌日の豚汁会にむけて準備。代田きぬ様宅調理場をお借りして、会員と会員の奥さん方により具材を用意。 ・1月15日第5回豚汁会開催。 ・4月1日諏訪湖銃猟全面禁止。10年の期限付き(平成7年4月1日～17年10月31日) ・7月新事務局長に花岡幸一氏が就任。 ・7月7日林俊夫先生死去享年83歳。 ・7月16日横河川河口にマコモを移植。白鳥の越冬を自然の餌で過ごせる環境づくりが目的で、諏訪市豊田の武井田川から約80株を運び、人工なぎさ脇の水路に植え付けた。 ・10月8日釣り糸や針・錘の除去作業。鉛の錘を飲み込むことによる白鳥の鉛中毒被害が跡を絶たないことから、有刺鉄線を巻いた鉄パイプを湖底に沈め、船と湖岸の両方から引っ張って底引きして取り除いた。 ・11月13日鉛中毒で一命をとりとめた「まあちゃん」御宝田に飛来、その後ダム湖に移動。
<p>平成8年 (1996)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月1日鉛中毒で一命をとりとめた「美砂ちゃん」諏訪湖へ、ペアとなって飛来。 ・1月14日第6回豚汁会開催。(前日代田きぬ様宅調理場をお借りし具材用意。) ・1月22日コハクチョウ「ふじ」衰弱しているところを保護、診断の結果鉛中毒と判明、どうぶつの病院で手術、その後2月4日放鳥。 ・3月11日長野日報「季節コラム・諏訪湖白鳥日記」定期連載十周年記念「諏訪湖の白鳥フォトコンテスト」の入選10作品が発表され、当会会員阿部正則氏の作品が入選した。県外を含め約60点の応募があった。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第8号」(21シーズン)を発行。 ・4月22日前事務局長両角保雄氏死去享年76歳。 ・9月24日諏訪湖における鉛製釣り錘の規制要望書を諏訪地方事務所へ提出。(諏訪湖白鳥の会、アルプス白鳥の会、獣医師会の連名) ・岡谷市の釣具店が鉄製の釣り錘を使った諏訪湖オリジナル仕掛けを発売。 ・10月27日釣り糸や針・錘の除去作業。 ・11月27日「ふじ」飛来。 ・12月31日「美砂」幼鳥2羽を連れて飛来。

平成9年 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月12日第7回豚汁会開催。豚汁会場にてカンパ金31,658円が寄せられ、保護活動資金に充てる。(前日代田きぬ様宅調理場をお借りし具材用意。) ・3月26日「鉛製散弾・釣り錘による水鳥の鉛中毒禍追放」の要望書を環境庁長官に提出。(水鳥を鉛中毒を守る会-アルプス白鳥の会が中心-が2千人の署名と鉛摘出手術、事故例の書類を添付) ・諏訪湖白鳥の会「会報第9号」(22シーズン)を発行。 ・10月19日釣り糸や針・錘の除去作業。 ・12月24日「美砂」ペアで飛来。
平成10年 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月11日第8回豚汁会開催。豚汁会場にてカンパ金11,257円集まり、保護活動資金に充てる。(第8回をもって豚汁会は終了となる。) ・2月28日諏訪湖畔でコハクチョウの死骸が発見され、望月先生の診察により鉛中毒と判明ほかに首の付け根と腸に散弾が撃ち込まれていた。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第10号」(23シーズン)を発行。 ・5月新会長に諏訪湖ハイツ支配人菊池暢氏就任。
平成11年 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月4日諏訪湖畔ヘルシーパル前でオオワシが保護され搬送中“グルッ”と鳴いたことから命名され「グル」の愛称で親しまれている。以後毎冬諏訪湖に飛来しいる。 ・2月21日保護されたオオワシは、日本野鳥の会諏訪支部林支部長による49日間の手厚い保護により体力を回復、大勢の方々が見守る中、諏訪市豊田にて放鳥。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第11号」(24シーズン)を発行。 ・5月新会長に諏訪湖ハイツ支配人白田正夫氏就任。 ・11月15日コブハクチョウ飛来、シーズンを過ぎた3月5日に豊科ダム湖で確認されている。 ・12月12日ミコアイサ保護、望月先生の診断により鉛中毒と判明、その後死亡。
平成12年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月26日に保護した鉛中毒のコハクチョウの幼鳥3月12日に退院、リハビリのためアルプス公園へ行くが6月27日同施設で他の動物に襲われ死亡。 ・このシーズン頃より、上川の飛来地とダム湖とを直接行き来する個体群が観察されるようになる。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第12号」(25シーズン)を発行。 ・11月30日コブハクチョウ再飛来。

平成13年 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月20日コブハクチョウもう1羽飛来。 ・1月15日から諏訪湖が全面結氷により、200羽を超えるコハクチョウのほとんどが上川へ移動、横河川河口に30羽程度が、わずかに開いている水面をねぐらとして戻ってくる。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第13号」(26シーズン)を発行。 ・4月新会長に諏訪湖ハイツ支配人伊東誉氏就任。
平成14年 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月2日諏訪湖アダプトプログラム説明会に出席。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第14号」(27シーズン)を発行。 ・7月28日アダプトプログラムが始動し、河口付近のアレチウリ抜き取り作業。(年3~4回の活動) ・9月諏訪建設事務所で進めていた、市民プール前の消波堤工事が始まり10月中旬に完成
平成15年 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月17日ヒシクイ1羽飛来。 ・3月4日人工なぎさへ降りる身障者用スロープの設置要望書を諏訪建設事務所へ提出。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第15号」(28シーズン)を発行。 ・5月15日人工なぎさへ降りる身障者用スロープが完成。 ・9月元会長増澤将浩氏が再度会長に就任。 ・10月諏訪湖ハイツが「おかや総合福祉センター」に生まれ変わり、同センター敷地内に餌保管小屋完成。 ・10月19日土手・中洲の草刈り・ゴミ拾い作業に岡谷ライオンズクラブも協力、その後も継続。 ・12月16日ヒドリガモがルアー用の擬餌針に絡み保護後、放鳥。
平成16年 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月11日コハクチョウの幼鳥の下嘴に、アルミ缶のフタがはさまり餌が摂れない状況。後、松本市内の釣り堀で保護。折れていた嘴を手術。2月16日犀川ダム湖に放鳥。 ・諏訪湖白鳥の会「会報第16号」(29シーズン)を発行。 ・5月記念誌「30年のあゆみ」発行。 ・5月22日「コハクチョウ飛来30周年記念」祝賀会をヘルシーパルおかやにおいて行う。 ・5月23日アダプトプログラム活動アレチウリ抜き取り作業。その後も継続。 ・7月10日諏訪湖白鳥の会「会報第17号」(30シーズン)を発行。 ・12月1日オナガガモ車にひかれ即死、人間に慣れすぎた故の事故。

平成17年 (2005)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月12日第29回日本白鳥の会研修会「長野県豊科町犀川大会」が行われ、当会会員も参加。 ・2月14日～15日2日続けてコハクチョウの幼鳥が、消波堤の木杭のすき間に首をはさみ2羽が溺死する事故発生。 ・2月20日消波堤周囲に事故防止ネット張工事施工（諏訪建設事務所） ・3月19日寄託契約を結び、当会所有のコハクチョウの剥製を下諏訪町立博物館へ。 ・7月9日諏訪湖白鳥の会「会報第18号」（31シーズン）を発行。 ・11月10日オナガガモ交通事故死。
平成18年 (2006)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月昨年末（12月下旬）からの冷え込みで飛来地近くに御神渡出現。 ・1月27日餌不足によりアルプス白鳥の会より2トントラック1台分の餌を提供していただく。 ・2月1日横河川に油流出、119番通報。吸収マットにより諏訪湖への流出はまぬかれた。 ・2月1日過去最高の440羽の飛来を確認。 ・7月8日諏訪湖白鳥の会「会報第19号」（32シーズン）を発行。 ・11月8日オオハクチョウ（幼鳥）1羽飛来。 ・11月11日当会の名入れジャンパー（薄）、防寒コート（厚）各1着配布。（半額個人負担）
平成19年 (2007)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月3日アルプス白鳥の会より餌26袋提供あり。 ・2月6日アルプス白鳥の会より餌13袋提供あり。 ・7月19日豪雨により横河川河口土砂で埋まる。 ・1月新会長に白田正夫氏が再度就任。 ・11月1日1羽初飛来するも40分程で飛び去り、11月28日まで0羽状態 ・11月10日諏訪湖白鳥の会「会報20号」（33シーズン）を発行。

平成20年 (2008)	<ul style="list-style-type: none"> • 1月25日全面結氷。その後も冷え込み2月末まで給餌場の氷割り続く。 • 2月23日オナガガモ交通事故死。 • 2月23日コハクチョウ幼鳥死亡、安曇野市「どうぶつの病院」で検死の結果、「衰弱によるカビ性肺炎」と診断。 • 4月21日十和田湖で死亡回収されたオオハクチョウから、強毒性の「H5N1型」インフルエンザウイルスが検出される。 • 7月12日諏訪湖白鳥の会「会報第21号」（34シーズン）を発行。 • 11月10日オオハクチョウ（幼鳥）飛来するも間もなく飛び去る。 • 11月12日高病原性鳥インフルエンザに関する会議に出席（諏訪合同庁舎）。 • 12月8日カワアイサ等魚食性カモ追い払い打ち合わせ会議に出席 • 12月12日漁協を中心とする害鳥追い払い作業が開始される。横河川白鳥飛来地にも影響が。 • 12月15日鳥インフルエンザ対策の看板設置（諏訪地方事務所・市町村）。
平成21年 (2009)	<ul style="list-style-type: none"> • 1月22日オオハクチョウ成鳥1羽飛来。 • 2月1日コブハクチョウ1羽飛来。 • 4月5日諏訪建設事務所より横河川河口橋架設計画の発表。 • 7月29日飛来地周辺の整備及び横河川への架橋計画に関連して、諏訪建設事務所へ要望行動。（要望書提出） • 9月12日諏訪湖白鳥の会「会報第22号」（35シーズン）を発行。 • 10月27日～30日刈り取った草木の処分を岡谷シルバー人材センターに委託。費用7万円余を会から支出し、今後の課題となる。 • 10月21日「野鳥に関する打ち合わせ会議」に出席（諏訪合同庁舎）。 • 12月2日9羽初飛来。過去2番目に遅い記録。漁業組合によるカワアイサ等魚食性カモ追い払いの爆音により、特に幼鳥が落ち着かない。

<p>平成22年 (2010)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月3日首の付け根に血が付いた白鳥を確認、翌日には姿が見えなくなっていた。 ・1月15日マガン1羽飛来。 ・6月19日諏訪建設事務所より横河川河口橋の「完成予想図」発表 ・7月10日諏訪湖白鳥の会「会報第23号」(36シーズン)を発行。 ・7月29日昨年につき、飛来地周辺の整備及び横河川への架橋工事に関連して、諏訪建設事務所へ要望行動(要望書提出)。また、草刈り及び作業後の草木処理への協力についても要望。 ・9月30日草刈り作業、草木の処理費について諏訪建設事務所と岡谷市へ要望行動、併せて両島の整備についても要望。経費の支出は困難であるが、作業には協力していただけることとなり、10月21日に3団体合同で行うこととなる。 ・10月21日諏訪建設事務所及び岡谷市職員の応援を得て、3団体での第1回目の草刈りを実施。刈り取った後の草木の処分は、下諏訪町のクリーンウェイストが見積額の半額で請負い、費用10万円余を会から支出。 ・11月8日「野鳥に関する打ち合わせ会議」(諏訪合同庁舎)に出席。給餌の縮小を要請される。 ・このシーズンから給餌を朝の1回だけに縮小する。
-------------------------	---



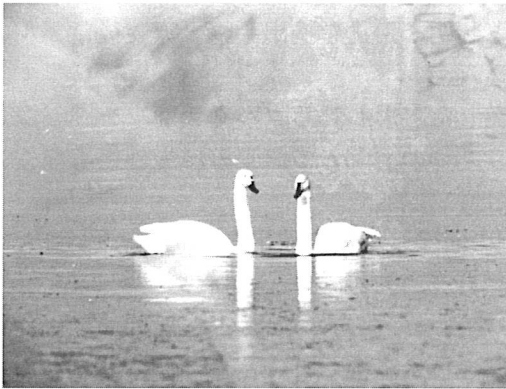
諏訪建設事務所と岡谷市職員の皆さんに協力していただき草刈り作業を行う (H24. 10. 17)

岡谷市職員の皆様に協力して回収作業を行う (H25. 10. 20)

平成23 年 (2011)	<ul style="list-style-type: none">・ 1 月3 日餌運搬用の一輪車が盗難される。・ 1 月5 日一輪車1 台を寄贈していただく。(寄贈者：(有)クリーンポ ンプ代表取締役武井茂夫様)・ 1 月22 日標識鳥飛来確認(足環)左足 KANKYOSH0-TOKYO-JAPAN15A-00335、右足緑色カラーリング172Y。 2009 年10 月～12 月北海道クッチャロ湖で15 羽に標識を装着し た内の1 羽。・ 2 月18 日コハクチョウ(幼鳥)衝突事故、上川飛来地上流側の高 圧線に衝突。・ 2 月19 日同幼鳥安曇野市「どうぶつの病院」に搬送、骨折一部欠 損のため切除手術。回復後松本市アルプス公園にて飼育受け入れ。・ 3 月7 日重油流出事故。カーネーションハウス暖房用の重油が配管 破裂により、飛来地近くの水路より約700lが諏訪湖に流出。水鳥に 大きな被害はなかった。・ 5 月19 日日本野鳥の会会長林正敏氏から寄贈された「鳥獣供養の 碑」を設置。・ 5 月横河川河口橋台工事着工。・ 7 月9 日諏訪湖白鳥の会「会報第24 号」(37 シーズン)を発行。・ 9 月16 日昨年につき、飛来地周辺の整備及び横河川への架橋工事 に関連して、諏訪建設事務所へ要望行動。(要望書提出)・ 9 月16 日草刈り及び草木処理への協力について、諏訪建設事務所 と岡谷市へ要望行動。今年も応援していただけることとなる。また、 要望を受けこの年から草木は、岡谷市が湖岸一斉清掃日に回収して くれるようになる。・ 10 月5 日初飛来幼鳥1 羽、最も早い記録。・ 10 月13 日3 団体合同による草刈り(第2 回)実施。刈り取った草 木の回収を岡谷市が行うようになり、会からの支出が不要となっ た。・ 10 月16 日諏訪湖岸一斉清掃日に合わせ、刈り取った草木の回収処 分作業実施。・ 12 月1 日「野鳥に関する打ち合わせ会議」に出席(諏訪合同庁舎)。・ 12 月31 日アメリカコハクチョウ1 羽確認(諏訪湖では初の確認)。
------------------	---

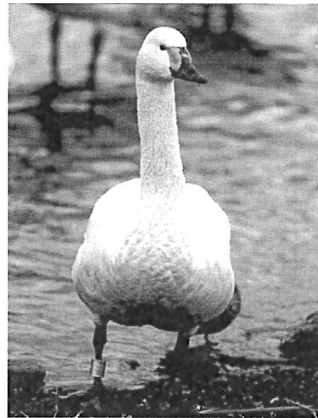
<p>平成24年 (2012)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月10日オオハクチョウ（幼鳥）1羽確認。 ・2月4日～5日白鳥飛来地（新潟県、佐潟・鳥屋野潟・福島潟・瓢湖）の視察研修を計画したが、都合のつかない会員が多数となり、取り止めとなった。 ・2月24日豊田地区の雪解けの泥田で25羽が採餌。 ・5月横河川河口橋第2期工事着工。 ・7月14日諏訪湖白鳥の会「会報第25号」（38シーズン）を発行。 ・10月2日草刈り及び草木処理への協力について、諏訪建設事務所と岡谷市へ要望行動（要望書提出）。今年も引き続き応援していただけることとなる。 ・10月17日3団体合同による草刈り（第3回）実施。 ・10月21日諏訪湖岸一斉清掃日に合わせ、刈り取った草木の回収処分作業実施。 ・12月11日初飛来5羽、過去2番目に遅い記録。 ・12月15日「横河川白鳥橋」開通式。 ・12月20日「野鳥に関する打ち合わせ会議」に出席（諏訪合同庁舎）。 ・12月20日オオハクチョウ7羽飛来（成鳥1、幼鳥6）。 ・12月24日標識鳥再飛来（23.1.22と同じ個体）。
<p>平成25年 (2013)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月4日～3月6日まで給餌場氷割り。 ・1月6日アメリカコハクチョウ1羽確認。 ・3月2日マガン（幼鳥）1羽確認。 ・3月7日衰弱したコハクチョウを砥川河口で保護。「どうぶつの病院」で診察結果、鉛中毒と判明。鉛錘を摘出手術・療養後、アルプス公園へ。次季放鳥の見込み。 ・3月8日高圧送電線に衝突したと思われるコハクチョウを岡谷塩嶺病院横の池で保護。「どうぶつの病院」で診察の結果外傷もなく、3月15日に犀川白鳥飛来地に放鳥。 ・4月22日温泉スタンド側の餌保管小屋の使用を廃止し、岡谷市に返還。使用期間（H15.4～H25.4.22） ・6月14日草刈り及び草木処理への協力について、諏訪建設事務所と岡谷市へ要望書提出。引き続き応援していただけることとなる。 ・7月13日諏訪湖白鳥の会「会報第26号」（39シーズン）を発行。 ・10月18日3団体合同による草刈り（第4回）実施。 ・10月20日諏訪湖岸一斉清掃日に合わせ、刈り取った草木の回収処分作業実施。 ・10月27日給餌の際使用する、湖岸土手の階段補修作業実施。 ・1月～12月白鳥飛来40周年記念事業について検討・準備作業。

平成26年 (2014)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月1日～15日「諏訪湖のコハクチョウ飛来40周年記念写真展」 -サブタイトル「写真でふりかえる40年」-と題して3コーナーを設け、諏訪湖ハイツにおいて開催。 ・「写真でふりかえる40年」のコーナーでは、主な事業・行事・白鳥保護活動などの思い出をふりかえってみました。(57点) ・「諏訪湖のコハクチョウ史この一枚」のコーナーでは「すわお」「すわこ」「のりこ」と渡りルート図等々を紹介しました。(11点)(渡りルート図を含む) ・12月22日「故郷シベリアの記録」のコーナーでは、シベリアでくらす白鳥達の様子などを紹介しました。(平成6年8月シベリアでの記録の一部15点) ・2月8日「諏訪湖のコハクチョウ飛来40周年記念講演会」を諏訪湖ハイツにおいて開催。講演者：日本野鳥の会諏訪会長林正敏氏。「諏訪湖の水鳥とハクチョウ史」を語る。 ・2月8日下諏訪町山王閣において、同記念祝賀会開催。 ・2月8日「飛来40周年記念誌」を発行・配布。
-----------------	---



すわお すわこ

S49. 11. 11 諏訪湖に初飛来



のりこ

H2. 11 北帰行のルートを教えてくれた

コハクチョウの越冬状況

シーズ	初認	終認	滞在日数	飛来数	備考
1	昭和49. 11. 11	昭和50. 04. 01	142	2	スワオ・スワコ
2	50. 11. 11	51. 03. 16	127	3	
3	51. 11. 10	52. 03. 28	139	5	
4	52. 12. 14	53. 04. 01	109	7	
5	53. 11. 23	54. 03. 23	121	6	
6	54. 11. 13	55. 03. 21	130	10	
7	55. 11. 11	56. 04. 08	149	12	
8	56. 10. 31	57. 03. 30	151	9	
9	57. 10. 30	58. 03. 20	142	10	給餌を始める
10	58. 11. 01	59. 04. 24	176	40	
11	59. 10. 30	60. 03. 17	139	51	
12	60. 10. 25	61. 03. 13	140	107	
13	61. 10. 21	62. 03. 22	149	104	
14	62. 10. 26	63. 03. 07	139	90	
15	63. 10. 22	平成元 02. 27	129	85	
16	平成元 10. 30	2. 03. 06	119	68	
17	2. 10. 22	3. 03. 16	146	126	
18	3. 11. 03	4. 02. 29	119	73	
19	4. 10. 22	5. 03. 12	142	58	
20	5. 10. 21	6. 03. 22	144	94	
21	6. 10. 24	7. 03. 14	118	71	オオハク1を含む
22	7. 11. 01	8. 03. 06	126	108	
23	8. 10. 21	9. 03. 03	134	83	
24	9. 11. 04	10. 03. 07	123	134	
25	10. 10. 26	11. 02. 27	125	106	オオハク2を含む
26	11. 10. 26	12. 03. 15	142	149	コブハク1を含む
27	12. 10. 27	13. 03. 19	144	219	コブハク2を含む
28	13. 10. 26	14. 03. 04	130	232	
29	14. 10. 27	15. 03. 14	139	525	
30	15. 10. 24	16. 03. 18	147	253	
31	16. 10. 29	17. 03. 25	148	273	
32	17. 11. 01	18. 03. 09	129	656	日本海側豪雪
33	18. 11. 04	19. 03. 09	126	183	
34	19. 11. 01	20. 03. 22	129	223	
35	20. 11. 10	21. 03. 02	82	98	オオハク成1幼1
36	21. 12. 02	22. 03. 13	102	176	
37	22. 11. 19	23. 03. 26	128	239	
38	23. 10. 05	24. 03. 15	163	203	アメリカハク1、材ハク1
39	24. 12. 11	25. 03. 18	98	165	アメリカハク1、材ハク1
40	25. 12. 21				材ハク12/11飛来

コハクチョウ飛来40周年を記念する事業として、この記念誌を発行することができました。

当会の現状は、高齢化による退会等で活動できる人数が減少していることから、40周年事業も無理のない形で行うこととし、他には記念写真展と記念講演会を開催することといたしました。

貴重な記録写真を提供していただいた皆様と、記念講演を引き受けていただいた日本野鳥の会諏訪 会長 林 正敏様に厚く御礼申し上げます。

ささやかな内容の記念誌ではありますが、この40年を振り返りながら、今後の活動の道しるべになれば幸いです。

会長 白田 正夫

(編集担当：阿部正則、花岡幸一、白田正夫)



語らい・仲良く何を話し合っているのかな